

柏西ロータリークラブ

創立：1975年11月 7日
承認：1975年11月24日

四つのテスト

1. 真実かどうか？
 2. みんなに公平か？
 3. 好意と友情を深めるか？
 4. みんなのためになるかどうか？
- インスピレーションになるう
2017-2018年度 会長：高田 住男 幹事：齋藤 敏文



第2061回通常例会 (2018.10.19)

■柏西ロータリークラブ URL: <http://kashiwa-nishi-rc.com/>■第2790地区ロータリークラブ URL: <http://www.rid2790.p/2018/>

2061回通常例会

- 1. 点 鐘 高田住男 会長
- 1. 会長挨拶 高田住男 会長
- 1. 幹事報告 齋藤敏文 幹事
- 1. 卓 話 笠井広子 様
- 1. 点 鐘 高田住男 会長

会長挨拶

会長 高田 住男



10月16日の合同例会及び情報研修会には、多数の会員の皆様にご参加をいただきまして有難うございました。この研修会のテーマは「職業奉仕」について勉強をさせて頂き

ました。宇佐見透奉仕プロジェクトサブリーダーの講演により大変分りやすくご指導頂きました。

さて、10月24日(水)はポリオの日となっております。ポリオは日本では小児マヒとよばれていましたが、ポリオウイルスは、5歳未満の子供に感染しやすく、人から人へ感染し、最も多いのは汚染水を通じた感染だそうです。神経系を侵し、身体の麻痺を起す可能性がある病気ですが、現在治療法がないそうです。唯一安全ワクチンでの予防が可能です。今年、野生型ポリオウイルスが確認されたのは3カ国(アフガニスタン、パキスタン、ナイジェリア)でした。アフガニスタンは15例、パキスタンは4例、ナイジェリアはゼロとR IのHPに見られます。

日本では、1960年以降ポリオ患者が出ていません。現在は風疹が

問題となっていますが、1979年4月2日(32歳)から1987年10月1日生まれ(41歳頃の女性)及び1987年10月1日前に生れた男性(32歳以上)の男性に関しては予防接種率が低い年代だそうです。ポリオの話に戻しますが「世界からポリオを撲滅しない限り、今後10年内の、世界の発症数は20万件に上ると予想されています。ポリオの常在国はわずか3カ国ですが、ポリオの発生がどこかで起きている限り、感染の危険は世界中の子供に及ぶこととなります。」と警鐘をならしています。食事中にポリオ支援BOXが回っています。ご協力をお願い致します。

来週26日は例会休会、28日が地区大会となります。参加者は、車の手配をしていますのでよろしくお願ひします。

幹事報告

齋藤 敏文

- ① RYLA (ロータリー青少年指導者養成プログラム) セミナー及び 参加ロータリアン・青少年の参加の依頼
日時：2019年2月2日(土)～3日(日)
場所：イワイ海岸 甚五郎(南房総市久枝582)
参加者：各ロータリークラブ1名
青少年高校生～30歳(男女各1名)
登録費：1名15,000円
- ② RIより飯合幸夫会員へロータリー財団寄付メジャードナー(\$10,000達成)

委員会報告

- ① ポリオ・プラス委員会 鈴木桂三 委員長
ポリオの寄付現状が8人。会員歴25年以上が4人、10年以上が4人で中堅が寄付をしていない。非常に残念です。
- ② 青少年奉仕委員会 水留茂之 委員長
RYLAについて(幹事報告参照)





ちょっとお話が暗くなるかもしれませんが、聞いてくださればと思います。今この日本でどんなことが起きているのか。子どもの貧困というのは実は地域差がございません。それはどういうことかという、子どもの貧困の本質的なところ。何が困っていて、どんなことがこれから社会に起きてくかという事は、地域格差がないんですね。例えば皆さんの中で、子供の貧困。多分ここにいらっしゃる方は、今日本では6人から7人に1人いると言いますが、きっとこの子貧困だろうっていうような、周りに見たことないですね皆さん。見たことある方あまりないですよ。多分皆さんそういう環境じゃないと思いますけど、実は子どもの貧困。実は貧困だと言われている子どもたちの世帯は、平均1世帯に子供が3人いるんです。で、納税者、税金を払っているだろうという子どもたちの親の世帯は1.2人の子供平均なんです。で、社会保障の生活保護受給者って事は、結局1世帯に3人いる子供たちの家庭が、これから20年後、成人したら納税者の子供が100人。そうではない家庭の子供は300人で逆転する時代が来るんですね。それをいま国は、本当に必死にやっているのはそこなんです。逆転した時、社会保障がどうなるのか。では貧困世帯に育った子供たちが、自らちゃんと働いて、学歴をとって、社会に働いて、自分で頑張れば別に貧困にならないだろうと思ってると思うんです。言わゆる自己責任っていう感じで、自分が貧困なのは自己責任ではないのかっていうことを、今日はそれが自己責任ではないのかという事を聞いていただけたらなと思います。

まずこの子ですけど、この子はいつもこうやって顔を隠しています。この子七歳にしてお父さんが5回変わります。兄弟が3人いますけど、3人とも全部お父さんが違います。このうちのお母さんは精神的な病を患っていますが、なぜこの家が貧困なのか。それはやっぱり家庭が安定してない、生まれたときからこういう家庭に育っている子供達っていうのは、一昨年発表になりましたが、

まずお母さんのおなかの中に子供がいる時に、栄養が足りない。お腹さえいっぱいになればいい、炭水化物だけを食べている、みたいなことをしていると、生まれた時から前頭葉が10%縮んで生まれてくるんだってこと分かってるんですね。その後です。こういう子どもたち、お父さんがまた変わる。今日ご飯を食べれるのかな。先ほど布団で寝れるんだろうかって、そういう不安の小さな不安、小さな心配事が、毎日の積み重ねを続けていくと、子供の脳は10%縮むって事が言われているんです。ダブルで縮んでいくんですね。で、そういう子供達が学校に行っても、勉強がなかなか追いつかない。勉強に追いつかないことによって、だんだん学校から離れていき、そして仕事に付きたい時には、実際に今うちにもいますけど、16歳で、この間私たちが初めて関わった子が16歳で、親から離れて住んでました。じゃあどうやって住んでるのかって、親御さんが刑務所にお母さん一人暮らしで、お母さん刑務所。子供は一人で暮らしてて、窃盗しながら暮らしてた子が16歳で初めて私たち、児相の方から紹介されて会いました。歯がほとんどありません。髪の毛も伸びっぱなしで、言葉もあまり喋れず、読み書きができません。でもその子が私たちのところに来て、読み書きを習いたい。なぜならば面会に行ったお母さんに、自分の名前と住所が書けない、刑務所で面会に会いたいんだ、っていう、そういうことは生まれた環境で、どうしたらその子がじゃあ一般的な生活まで行くのか。その子の自己責任なのかと言ったら、そうでもないと思います。

そういう子がいたことを社会がなぜ見つけられなかったのか。社会は何をしていたのかっていうのが、私たちの社会の責任がどこかにあるんじゃないかということなんです。居場所に来る子どもたち。貧困を自己責任と思っ
ていませんか？ 生まれた環境に左右される子供達。この子供たちがどんなに頑張っても、生まれた環境でどうにもならない子供たちがいるということです。お手元に白黒で経済的にしんどい事はどんな事かってこのチラシがあるんですけど、これ後で読んでみて下さい。要はこういう環境で生まれた子供たちが、親になって子供を産んで、また子供産んでって、今三代目のお子さんが多いです。おじいちゃんおばあちゃんが生活保護受給。その子供が生活保護。その子供が今私たちが関わってる子供達です。で、その生活保護受けて、なかなか抜け出せないですよ。なぜならばまず定職につけない。保証人が今の会社ってすごくいるんですけど、保証人がいないですよ。なので保証人がなくてもいい仕事っていう

ことになっていくんです。だいたいブラック企業に入ることが多いです。そして、そういう風に学歴はあまり持たず、スキルもなく、承認の無い人同士が働くところで出会った同士が結婚すると、同じ境遇のような人たちが結婚してまた子供が生まれる。で、脳が萎縮しやすいので、色々な障害を抱えてしまう、そういう人たちが自己責任で、親が何やってるんだって言われていても、その人達が何もできない事を社会が責任を取っていない。というのが今の現状です。

これはですね3年前の、読売テレビとかいろんなテレビ局から取材が来るんですが、ほとんど断わっています。なぜならば一人の子供をずっとターゲットで追いかけていると、その子が誰だかわかってしまうってことがあるので断っているんですが、地方のNHKテレビだったらいいかなってことで、3年前と、後、6年前とか、2、3年に一回テレビ取材受けてるんですが、これは3年前のものです。一度ちょっと見ていただければと思います。

『今夜の特集は17歳以下の子供の6人に一人が貧困状態にあるとされる中、広がりを見せている子ども食堂についてお伝えしていきます。このこども食堂ですが、経済的な理由で十分な食事を取れない子供や、いわゆる孤食と言われる一人で食事をとる子供に、無料または安価で温かい食事を提供しようと始まったものです。』

『県内でもこのところ開設が相次いでいますが、幅広く利用を呼びかけ、利用者を限定せずに運営している所が多く、本当に支援が必要な子どもたちに利用して貰うにはどうしたらいいかが課題になっています。』

『そんな中、龍ヶ崎市に独自の取り組みをしている子ども食堂があります。本当に必要な支援とは何なのか。子供たちと向き合いながら模索する現場を取材しました。』

『学校が夏休みに入った先月下旬の夜 龍ヶ崎市で子ども食堂が開かれました この日のメニューはオムライス、食事は全て無料です。』

『食卓を囲んだのは市内に住む小学生から高校生10人ほど。ここはひとり親世帯や、所得が低い世帯など、経済的に恵まれない家庭の子供達だけを対象とした子ども食堂です。かつて病院だった建物を借り、毎週2回午後6時半から8時半まで開いています。毎回送迎車を運行し子供達が少しでも訪れやすい場所にしようとしています。』

『このこども食堂を運営しているのが市内のNPO法人。料理担当のボランティアなどおよそ10人のスタッフが活動支えています。食材の多くは、寄付などを通じて集めたものです。野菜は近所の人が届けてくれます。代表の笠井広子さんです。笠井さんは貧しい暮らしを余

儀なくされている子供達の存在を知り、2年前に支援に乗り出しました。最初に取り組んだのは食事付きの無料学習塾。対象を低所得世帯に限定しましたが、まもなく課題が浮かび上がりました。常に空腹状態で、勉強どころではない深刻な事態の子供がいることが分かったのです。』

『まずお腹が空いている。勉強が手につかないとか、集中できない子供達は、一応塾と名前がついていると、来るたびに「俺、今日勉強しないからな」と毎回言わなければいけない。その毎回しないからなっていうのが、却って彼たちを苦しめる言葉になっていた気がすごくして、勉強しないからなっていう言わせないでいい場所が必要だな。』

『そこでよりきめ細かいサポートをするために、今年から学習支援の無料塾と子ども支援の子ども食堂を、それぞれ別の日に開くことにしたのです。笠井さんはこの場所で食事をし、人と触れ合う中で辛い状況を乗り越えていく力を蓄えて行って欲しいと言います。2年前からここに通っている中学2年の男子です。両親が離婚し、現在は父と高校生の兄、持病がある祖母と暮らしています。父親は運送会社で働いていますが、収入は決して十分とは言えません。』『最初にここに来た頃は、乱暴な言葉を使い、態度も荒れていたというAさん。しかし笠井さんは、確かな変化を感じています。』

『とにかく人を傷つける言葉で、生きている子だったんですよ。それが今は、笑ったり、今はすごく穏やかになってきましたね。さらに私たちをもっと、大人を信じられるようになれば、次に行くかなと思うんです。』

『この時期笠井さん達は、さらに一歩踏み込んだ支援を行っています。それは食べ物の宅配です。実は夏休みは、貧困の子供達にとっては辛い時期。それは給食が食べられず、満足な食事が取れなくなってしまうからです。笠井さん達は、届け先の家族構成なども考えながら商品を詰め合わせています。企業や個人から提供された、レトルト食品やカップ麺など、子供でもすぐに食べられるものが基本です。さらに缶詰などを加え、栄養のバランスなどにも配慮しています。』

『炭水化物でお腹をいっぱいにしてる家庭が多いので、缶詰でもいいので、タンパク質が取れる。魚系を入れてあげたいですねご飯にも。』

『宅配は週一回。夏休みだけでなく、春休みや冬休み。大型連休中も行ってきます。この日は6軒の家を回るという笠井さん。その中に今一番気がかりな子どもたちがいました。食堂にやってくる中学生と小学生三兄弟の家です。父親は病気がちで、母親が深夜まで工場働いて家計を支えています。そのため子供達は、母親に会わせて昼夜逆転の生活になってしまい、朝学校に通えなく

なっているといえます。』

『この中で布団もなく、虫が這っている中に寝ていて、本当に世界がそこなんですよね。それ以外の世界を知らないで育ってきて、今のままでどうするんだろうって言う、本当に何をしてあげたらいいんだろうかって思いませんね。日々手探りです。』

『貧困を余儀なくされる子どもたちが訪れる、龍ヶ崎の子ども食堂。笠井さんはこれからも子供達と向き合い続けます。』

『経済的に苦しくても本当に未来まで貧しくして欲しくないんですよね。未来をあきらめないで、豊かに生きて行って欲しいと思います。経済的というよりは、人として心豊かに生きて行って欲しい。』

『家庭の貧困の状態を根本から変えるって事は難しいことだと思うんですけども、子ども食堂で過ごすことで、辛い状況を乗り越えて未来を切り開く力を支えたいというこの、笠井さんの考えに共感しますね。』

『そうですね。取材した小堀ディレクターによりますと、普段偏った食生活をしているために、食堂で出される野菜などを受け付けない子供もいるということで、貧困状態にある育ち盛りの子供達を、周囲がどのように支えていくべきか考えさせられました。笠井さん達は今後、より多くの子供たちを支援したいと、車に食材を積み込んで出先で食堂をオープンする、移動子ども食堂を開きたいと考えています。』

『一方で子どもたちのサポートだけでなく、親の支援も必要と考えています。生活保護の手続き、また子供の進学のための奨学金申請の手続きなどの手助けも行っているということです。今楽しい夏休みの期間ですが、貧困の子供たちにとっては、給食はなくて辛い時期であることを多くの人に知ってもらいと思います。今夜の特集でした。』

はいありがとうございます。先ほどテレビに出てきた家庭のうち、あの子たちがうちに来た時に、初めて私たちが聞いたのが、いつもうちに来る時に必ず聞くのはまず、子供達に今まで布団で寝たことがあるかというのを必ず聞きます。で、今うち80人に子供達が来ていますが、布団で寝ると言う子供達の方が少ないです。寝てない子供たちが多いです。どんなことをやってるかと言ったら、服のまま寝て、服のまま起きるっていう、そういう子供達、もちろん歯も磨いたこともない、歯ブラシも持っていない。そういう子供たちが実はとっても多い。日本って本当はそういう現場がいま本当にあるんです。ただ、まわりにはなかなか見えてないと思います。

そういう子供達、先ほどの子供達、お正月、年を越せません。親もですが、お餅なんか食べたことない子がた

くさんいます。なのでうちは、毎年今年もやるんです、12月25日クリスマスの日、龍ヶ崎市だったら龍ヶ崎市の保護者の方々。それからライオンズさんだったりロータリーさんだったり、そういう方々に協力していただいて、25日に、龍ヶ崎市のすべての子供たちが貧困の子供に、お餅と海苔とお米一人5kgって決まってるんで、3人だったら15kg、それをダンボールに詰めて手渡しをします。25日一斉に。そうするとみんなすごく考えるんです。なぜかと言うと、25日、一般の家庭の子供達が楽しく電気つけてプレゼントをもらってたり、お祝いしたりケーキ食べてるのに、私が行く子供たちは電気が消えていたり、親も誰もいないで子供だけが布団に入って、こたつの中で丸まって寝てたり、そこに私たちが行くとパッと出てきて、箱を開けてお土産があるということで、箱を開けてパッと食べる。そういう子供たちがいて、子ども宅食配と言います。たぶんこれは全国的にこれからになると思います。日本、内閣府の、山梨にも行ってましたけど、これから国も、子ども宅食配に力を入れていくことだと思います。柏市も多分いずれ入ってくると思います。ぜひそういう時に、ロータリーの皆様が、そういう子ども宅食、12月25日に日に電気もついてない、布団ないところで寝ている子供たちを想像していただきたいなと思うんですけど、うちに来てる子供がこんなこと言ったことがあります。サンタさんなんて嫌いなんだって、なんで？ って言ったら、だってサンタさんって金持ちの家にしか行かないよなって、自分の家にサンタさんが来ないことをそう思っているんですね。実はお父さんお母さんが買えないから来ないだけなんですけど、その子はそう思っていたんですね。

あるうちに来てる15歳の男の子が初めて来た時、13歳の時こんな事言いました。広子さん今日お米くれないかなって言った時に、その時その子がボクくん今日お米2合しかないんだって、13歳の男の子が言うんですね。私とっても違和感感じて、なんで違和感かなと思ったら、自分が生きてくるのに自分の家に何合お米があるかなって、考えて生きてきたことが私にはなかったんですね。でもこの子は13歳にして、そういうことを考えて行くんだって。動くとお腹がすく、これ本気で真面目に言うんです。動くとお腹すくから動かない、そのぐらいな空腹で私もなったことないんですね。視力検査とメガネ、これがこの子の家に妹が、学校で視力検査があると、目医者さんに行って眼鏡を作るっていうの学校でやるんですけども、もちろんそれを親に言えないんです。親が困ると思って。で、そうすると何度も学校で書類を請求されるんです。ほとんど困ったこの子は、ある時お母さんに見せました。目医者さんに行かなきゃいけないんだよね。で、その子はメガネをかけて学校に行っ

て事なきを得たんですが、実はその眼鏡、お母さんが夜工場に行く時にかかる 100 円の老眼鏡だったんですね、百均で買った。それを昼間子供に貸して、子供が昼間それをかけて学校に行き、帰ってくるとお母さんに渡してお母さん眼鏡をかけて工場です仕事をする。でも学校がその子 100 均の老眼なんてわからないので、普通の席だったんですけど、黒板が何も見えないので、黒板で写してする授業の板書ができない。そういうとただけでも、ほとんど学力がどんどん遅れていくっていう悪循環なんですね。

私たちが感じた、支援してて感じたのが、経緯によるハードルの違い。それは私たちは自分がお米何合あるかわからないで生きてきたり、眼鏡が無かったらすぐ作ってくれる家で育ってきているので、こう言う子供達に会った時にもものすごいいろんな不思議なことが感じるんです。例えばある女の子が、私たち朝ごはんを持たせるんです。子ども食堂に来たら、夕飯食べて。朝ごはん渡してる時に、ある女の子が必ずお母さんの分も欲しいって必ず言うんです。で、すごく優しい子だとずっと思っていました。おかあさんの分も欲しいって。である時お母さんの分がなかったんです、残り物で。でその子だけ渡しました。そしたらその子が、じゃあいらないって言うんです。なんで？ って言ったら、だってお母さんの分もないと、お母さんが食べちゃうから。その子の持って帰った 2 個のおにぎりを枕元に置いて、先にお母さんが食べてしまうので、だからいつもお母さんの分を頂戴って言ってたのは、自分の分を確保するためだったんだという時に、私はとてもそういう親子ってのが存在するというのが、私の中では経験がなくて驚いた。そういうことが私たちの人生と、こういう子供達を支援する時には、自分の生きてきた人生観と相手が違うことのハードルの違いを理解しないと、支援ができないんだなと思いました。

で、この子の家のお母さんが月 8,000 円で生活します。家賃 42,000 円払って、パートで週 3 働いてるんですけど、その他にいろんなもの払って、残り 8,000 円。これが全てのお金で生活してるんですけど、ある時その家庭を新聞記者が取材した時に、8,000 円でどうやって暮らして、月末になったら困りませんか言ったら、このお母さんがちっとも困らない。なぜならば、だって食べるもの無かったら食べなきゃいいからです、って言ったんですね。そういうのが私たちの中にも想定外なんですね。こういう子供達を支援するってことは、自分の人生観を抜けなきゃいけないですね。貧困から来る事ってのはまず、学校で何か購入する時に、この子たちは学校に休むんです。学校で何か購入できないので、で、次に学校に行ったときに、なんで休んだんだと言うと、

風邪引いたとかって。嘘だ。っていう、そういう小さな嘘の積み重ねが、この子達のメンタルをすごい蝕んでいくんです。自分に肯定感が持てないって事ですよね。

あと、この子たちが来ると、私たちゴミお掃除を家に来ます。何故家に掃除に行くかって言ったら、まずゴミ屋敷で暮らしている事がほぼほぼなんです。私の身長よりもゴミが詰まっているような家で寝ていて。で、そのゴミの掃除に手伝いに行くと、大袈裟だけどゴミの中からその子の生きてきた人生が見えます。例えば、メロンパンとかそういうもののカスばかりあって。ご飯はいつもこんなもので済ませてきたんだとか。それからある時、違うところの子なんですけど、お掃除に行った時に、その子の家からへその緒が出てきて、これを何かと言ったら、その子が生まれたので、それはあなたとお母さんのものだよ言ったら、その子の家は母さんが出て行っていなかったんですね。「へー俺って母ちゃんと繋がってるんだ」って。そしてまたのお母様のバックがあって、もうペタンコになってカビがはえてたの、ゴミのそこから出てきて、このバッグどうする？ 捨てる？

どうする？ 言ったらその子が、「あ、母ちゃんのカバン、もし母ちゃんが帰ってきたらいるから取ってくれよ」って言うんですが、その子は学校の中で札付きの不良の子なんです。勉強もできなくて、って、でもそれは決してその子のせいではなくて、そういう環境で勉強もできない。親も、お父様もなかなか家にいなかったり、お母さんが出ていかれて、そうやって兄弟だけで生きてるこの子が、学校の中でいつもいろんな問題起こして先生に目をつけられていて、世の中を斜めに見ている。そういう子供たちが、一人でなんとか生きていけるわけがない。それを私たち社会がどう支えていくか。

いろんな事件が起きるんですが、心を閉ざしたきっかけがあります、この子が一人。その後も学校に全く行かなくなったんですけど。学校では 1/2 成人式ってのやってる地域が多いですね。十歳ぐらいの時にあるんですね。ちょうど成人式の半分だよって。小さい時に生まれた写真とか持って行くんですけど。ある子はそんなもの一切ない。写真なんてないうちの子が多いです、自分の。学校で持ってって、お父さんお母さんにありがとうって書こうって授業なんですけど。その子は書けなかった。生まれてきてありがとうだけを書いたけど、お父さんお母さんという事を書かなかったことで、先生に赤ペン入れられて、もっと親に感謝って。それからのその子は大人なんて俺が嫌いだって言い始めて、すごく非行に走って行くんですが、さっきの中学 2 年生。ご飯を家でなかなか食べられないって言ってましたが本当にご飯がない家なんですね。で、そういうことで子供達、いろんなことで嘘を積み重ねて、生きていくためにいろんな嘘をつ

いていくんです。友達が遊びに行きたいって言ったけど、ゴミ屋敷には連れてこれないので、いろんな理由を付けて友達を連れてこない。そういう小さな嘘を積み重ねて、長い時間かけて自尊感情が全く育っていかないんですね。で、そういう私は被害の歴史(?)と呼んでおります。そういうことで、これをうちに来ている子どもたちで、今この子達、手前にいる子はですね、虐待で児相からの紹介でうちに来てます。前の男の子、兄弟なんですね。お母さんがちょっと知的に問題があって、お父さんはそういうことを知らずに結婚して、お母さんと子供を置いてどっか行かれちゃった。で、お母さん知的に問題あるからなかなか働けないってことで、とても貧困でネグレクトになっていて、うちに来ました。隣の女の子もそうです。虐待でうちに来てます。まだ4歳ですね。ここでこうやってご飯食べてます。貧困の中で育つってことは、どんなしんどいものかって事は、経済が厳しいってことじゃなくて、いわゆる貧しさの中で生きていく中で、子供たちが自分たちの自信を持って生きていけない。いろんな事で世の中からすぐ隠れて生きていってる。それがその子たちの人格を形成して、そういう子たちが大人になった時に、明るい未来なんて見えないんですよ。学校での学びの時間も奪われます。学校で何か買わなきゃいけない時間休むので、必然的に学校で学ぶ時間は奪われます。友達と遊ぶ時間が奪われます。例えば友達と遊びに行こうとなっていて、ある子が言いました、ドキドキするって。なぜならば待ち合わせた時に、マックだったらね、100円あればなんとか友達と付き合い合えるけど、ココス行こうとか言うと、俺の金じゃ行かないからそうするとドキドキすると、初めから嘘をついたことある。で、そうすると友達と遊ぶ時間も奪われる。家族で楽しく過ごす時間、家族旅行なんて本当にうち80人子供いますけど、行った事ある子は1人もいません。家族での当たり前前の時間、食事をしたりそういう時間ありません。私達が当たり前前に持っている、当たり前前の家族や友達の一生の思い出を、貧困っていうのは根こそぎ奪って行くんだってことなんです。それがどれ程子どもたちの人格や人生に影響するのか計り知れません。計り知れないそのままの子供の頃からの貧困を引きずった人が今、親となって子供を育てているんで、できないことがたくさんあるんです。それを自己責任で社会の通りではなくて、社会のあり方をもう一度見直す、福祉の原点に立ち返るべきだと思います。福祉の原点って、福祉って何なのか。福祉の原点ってただ一つですよ。なぜそうなったのか問わない。今困ってるあなたを助けるってこれが福祉の原点です。なんでそうなったの?どうしてそうなったの?って言っていると福祉っての成り立たないんですよ。今困ってるあなたを助ける。なぜ

そうなったのか問わないってのが福祉の原点です。誰もがするであろう経験や体験を社会に出る前に安心して住める場所、人も出会いが必要です。大人のする環境を整えてあげる。できる人がするしかないと思います。それは親じゃなくてもいいんです。何の支援もなく子供の頃貧困の中で生きて、大人となった親と、今しんどい子供と親として育ち、子供としての育ちを、地域が丸ごと関わる地域養護という福祉が必要だと思います。私たちの居場所という所でやっていますが、居場所できることが何もできない、ここのとこ積み上げていだけマクドナルド1つ行ったことがない子たちは友達にマック行こうと言われてドキドキするんですね。それがいじめにつながったりするので、マクドナルドに連れて行くとか、銀行と一緒に連れて行くとか、駅で切符を買ってみる。そんな小さな積み重ねを居場所ではします。そして食事をしながら困ってるが見えてくる。生活支援で心の環境を変えていこうと私たちは思っています。お母さんがお父さんの働きや職場を根本的に変えること私たちは無理ですよ。経済的な事を。だけでももしかしたら布団で寝れない、布団をあげるよ。今日ご飯を食べられるかな、おにぎりあるよ。そうやって心の中で不安で仕方ない小さな出来事を支援する。そして心が不安だった子供たちを心は安心することは私たちでもできるんじゃないか。生活環境を変えられなくても、心の環境は私たちが変えてあげられることができるんじゃないかっていう風に私たちは考えております。この子もそうですね。ちっちゃい子がたくさんいます。家は2歳から18歳の80人の子が来ています。時間がないですけどこれはちょっと聞いていただきたいなと思いますので聞いてください。

『「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と福沢諭吉は云(い)う。そしてその後、だから学問に励めば報われると説いたことも今では有名である。本当に、そうだろうか。生まれゆく子供を一人ずつ、神が人生という川に落としていくなれば、その速さは、透明度は、横たわる岩石は、みな同じだろうか。

私は児童養護施設と無料学習塾で学習支援ボランティアをしている。そこで出会う子達(たち)が落とされた川は、激流であり濁流だった。種々の虐待や親との離別に幼い頃からのまれてきた彼らは、オール(こ)ぎ方や分かれ道の選び方もあまり教えてはもらえなかった。激しく濁った川の中で、それでも大きな岩に衝突して転覆してしまわないように、必死で自分の力で生きてきたのだ。

家庭の事情で保護される子供のほとんどが親族や地域の方々との交流のない、閉ざされた社会で暮らしてきたという。情報が無ければ、選択肢は増えない。自分の心

の抛（よ）り所となる「安全基地」としての養育者の存在がいなければ、冒険に挑むことはできないのだ。

彼らにはまず、荒れ狂う水をせき止めるダムが必要だ。それは衣食住と安全の絶対的確保であり、生活の仕方を覚えさせたり、勉強を教えたりするといった自立支援であり、何よりもたくさんの大人からの愛情の享受である。

ダムがあれば、氾濫しても大丈夫だという安心感が生まれる。緩やかになった川で、一から人生を渡る術を学べる。分岐点では自分の進むべき道をゆっくりと吟味できるし、頑張れば、流れに逆らって這（は）い上がり、やり直すことだってできるのだ。この状態になって初めて彼らは、「学問のすゝめ」の土俵に立てるということだ。

だが現状、ダムの建設は難航している。ダムの必要性を理解していない人が多すぎる。実際、社会的養護に携わる人や使える予算が不足しており、家庭的な子育てを実現させることは難しいと感じる。子供達はみな寂しがり屋なのに、なかなか職員の方に構ってもらえず、大人も子供も大変さを抱えているのを見てとれるのだ。

だからこそ、「運良く」生まれつき緩やかな川に落とされた人の力が必要だ。子供はもらった愛の分だけ他者を愛し、その愛を社会に還元する。子供への「投資」をしようではないか。落とされた川は変更できない。けれど周囲の助けひとつで、その人の川は、人生は、生きやすいものに変貌し得るのだから。』

これがうちにボランティアに来てる高校1年生の子が、ちょうどたまたま去年の全く10月19日、同じですね、今日19日ですよ。毎日新聞で大賞を取った子が書いてくれたんですけど、うちの子供を見て書いてくれました。こういう子どもたち、みんなたくさんいます。で、きっと皆さんの前には本当はいるんです。でも見えないんだと思います。ここの環境を変える支援、子供達は親や社会から守られて、毎日布団で寝る。ご飯も食べて、安心して生きていける、本当そういうはずの子供たちなんです。それはどの子も同じはずなんですけど、だけど布団で寝ることや、ご飯を食べる事が生まれた環境によって、今日はどうなんだろう。今日はお父さん帰ってくるのかな。お母さん帰ってくるのかな。ご飯はあるのかな。布団寝てみたい。そうやって不安だらけの毎日を過ごしていかなければいけない子供たちが日本に今6人に一人いるということです。その前が不安が僕たちを壊していく。心を病んでいきます。だから助けてほしい。僕たちは子供の自分だけで環境を変えることはできません。子供が働くことはできないし、子供は生まれたところから逃げることもできません。環境を変えられない僕たち子供が、本当に死に一番近いです。子供って、もし今いる家庭が嫌で、学校が嫌だったら、家出をしたら働け

ないので死ぬしかないんです。だから子供が日本で、先進国で日本が子供たちの自殺が、世界一多いのはそういうことです。こういう事を大人達は忘れているんです。これ私達の子供たちが、今からリスカしますって、簡単にLINEで送ってきます。今からリスカしますねって。決して死ぬ気ではないですが、こういうことをしないと生きていけない子供たちが、本当に普通にいます。

私今考えてることなんです。できること。これ子供の未来基金自動販売機です。これ内閣府にこの自動販売機を置いてくれるとジュースが10円内閣府に寄付され、こういう子供たちに支援回ります。電気代は設置した方の負担になるんですが、自動で収益して、銀行も振り込んでくれて、全てが内閣府でやってくれる。こういう販売機を、もし家の近くに置いたり、お店で何台かあったら一台だけこういうのに置いてくれたりすると、電気代は払いますが、こういう支援もあるし、もし誰か興味があったら検討してください。

そして私は今思ってるのは晴人四季。私が言ってる成人式は晴れた人の四季。季節折々。これは子供たちの親御さん。貧しかったり、それからいろんな事情で非行に走って刑務所に行き出てきたり。そういう人たちって成人式を迎えてないんですね。でも成人式で二十歳じゃなくてもいいんです。今人生に立ってやり直せる。岐路が、俺はやり直せるんだ。やり直せるんだと思った人たちが、晴れた人たちが季節折々に60歳の人や、70歳の人みんなで集まってやれば恥ずかしくない。ひとりじゃちょっと恥ずかしいけど、そういう意味で晴人四季として、晴れ着を着てみんなで祝ってあげることいいのではないかと思います。

そうするとあれなので。はい。あと喋りますって事ありますので、色々忙しかったんですけど。今日こうやって早口で申し訳ないんですけども、こういう子供達がいることをどうぞ皆さん忘れずに、どこかでこういう子供達がいいたら、是非に支援していただきたいなと思います。ほんとに早口ですいませんでしたけど、ありがとうございます。



R 財団寄付 メジャードナー 飯合 幸夫 会員



オブザーバー 高本 明 様



オブザーバー 馬場 和也 様



ゲスト 千葉RC 大野 雅章様

We Love Abiko
真剣に結婚を考えている方
婚活パーティー

日にち 平成30年11月10日(土)
時間 15時~18時(受付14:30~)
場所 ハート柏迎賓館
住所 柏市柏233
TEL 04-7163-1111

内容 対面式自己紹介
フリータイム(軽食付き)
※生演奏のBGMやテーマソングをお楽しみ頂きます。

参加資格 ●独身者 ●男性・女性 25歳~50歳 ※年齢は多少前後しても可とする。 ●男女ともロータリークラブ会員の推薦が必要

参加費 男性 4,000円 女性 3,000円
申込締切日 平成30年10月20日

主催 我孫子ロータリークラブ
協賛 柏ロータリークラブ 柏西ロータリークラブ 柏東ロータリークラブ 柏南ロータリークラブ
後援 我孫子市

これからの例会予定

月日	曜日	例会	卓話者・他内容
11月2日	金	通常	杉原正幸会員
11月9日	金	移動	11:45 点鐘セブンパークアリオ
11月16日	金	通常	井川拓一様(元裁判官) テーマ「裁判員制度発足とその後」
11月23日	金	休会	勤労感謝の日

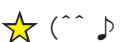
出席報告

会員数	68名
欠席者	17名

石井、江波戸、長田、影山、金子、ゲイビ、後藤、小林正直、小林直人、小溝、東海林、杉山、助川、住吉、中嶋、細田 会員

出席率 75.00%

ニコニコBOXありがとう!



水野会員 輝く瞳に会いに行こう全国大会無事終わりました、来年5/11 千葉大会が決まりました
飯合会員 メジャードナーありがとうございました

ゲスト

笠井広子 (NGO 未来のこどもネットワーク) 様
大野雅章 (千葉RC) 様
馬場和也 (オブザーバー) 様
高本明 (オブザーバー) 様

次回の例会は 11月2日(金) 通常例会です。

クラブ会報委員/浅野 肇・住田 みゆき・竹澤 雅彦
卓話・会報の原稿は kwrc.photo@gmail.com までお送り下さい。

欠席報告は、水曜日の正午まで

※クレストホテル(営業課)04-7146-1122 まで
※LINEでの連絡も可能です、詳細はSAAまで
※直前の欠席はSAA 安田(080-5680-5460) まで